

予算決算委員会

予算の審査は、総務、文教環境、地域福祉、産業建設の各分科会に分かれ、詳細な審査を行いました。その後、予算決算委員会の全体会においては、各分科会から審査の経過と結果の報告を受け、審査を行いました。

総務分科会

議案第1号 令和2年度鈴鹿市一般会計予算

ロボティックプロセスオートメーションの導入に向けた効果の検証

○RPA導入効果検証事業費 497万4,000円

（概要） 人口減少社会において、職員数が減少する中、市民生活に不可欠な行政サービスを提供し続けられるよう、ICT（情報通信技術）などの活用を推進し、業務の効率化を目指すため、その調査・研究などを行うとともに、導入に向けた効果の検証を行う経費を計上するもの。

質疑 RPA導入の目的、事業内容はどのようなものか。

答弁 令和2年度は、RPAの導入効果を検証するため、市民税課、障がい福祉課、人事課における3つの業務に試験的にRPAを導入し、正常に機能するかどうかを確認する。また、それらの業務を行う職員の時間外勤務がどの程度減少するかなどの効果を検証し、令和3年度予算における人件費などへの反映も検討していく。

※RPA…ロボティックプロセスオートメーション。大量のデータを使い、定型で繰り返し行う事務を自動化する情報通信技術の新たなツール。

文教環境分科会

議案第26号 令和元年度鈴鹿市一般会計補正予算（第5号）

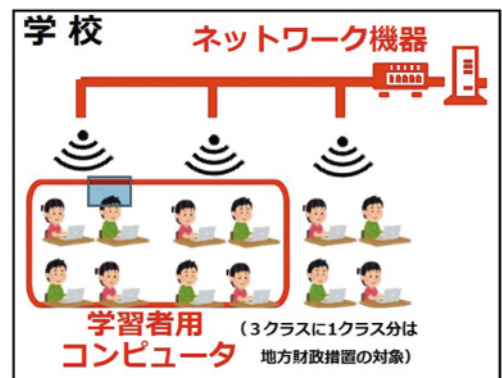
校内通信ネットワークおよび児童生徒1人1台端末の整備に向けて

○GIGAスクール構想推進費 11億2,540万円

（概要） 文部科学省において「GIGAスクール構想の実現」事業として示された国庫補助を活用し、各学校の校内通信ネットワークの整備および児童生徒1人1台端末の整備を行うための経費を計上するもの。

質疑 予算額は、児童生徒の人数・規模を元に算定しているのか。補助金の申請方法について知りたい。

答弁 複数の業者から見積もりを取り、事業費を算定したが、現在、文部科学省の想定した予算の約3倍の事業費が自治体から寄せられているとのことである。当初の申請予定額で予算計上しているが、各自治体の学級数の割で算定され、補助金が削減される可能性が高いと考えられる。



GIGAスクール構想補助の対象